

〔論 文〕

Jリーグにおけるゴールキーパーの特徴と課題

——今後の日本のゴールキーパー強化策に関する検討——

服 部 健 二

I 緒言

1. ゴールキーパー（以下GKと略記）の役割の多様化と特徴の変化

GKは、自陣ペナルティーエリア内で手を使うことのできる唯一の選手である。そのため、GKはポジション特性上、「ゴールを守る」ことばかりが強調されてきた。しかし、現在のGKに求められる役割は大きく変化してきており、キャッチングやセービングという守備の局面においてのみ気を配るだけでなく、攻撃に関わるプレーへの貢献も期待されている(Dooley and Titz, 2011)¹⁾。さらに日本サッカー協会(以下JFAと略記)は、サッカー指導教本²⁾の中で、「求められるGK像」を提示しており、11人のうちの1人としての「ゲームに対する理解」と「テクニック」を身に着けたうえで、「堅実な守備」だけでなく、「効果的な攻撃参加」もGKに必要な役割として挙げている。さらに、11人で攻撃するチームが増加する中で「GKからの効果的な攻撃参加の成功・不成功がチームの攻撃の鍵になってきている」と述べている。

また、「堅実な守備」に関しても、「ゴールだけでなく、ゴール前のより広い範囲を堅実に守れることが求められる」と述べ、GKの守る範囲がゴール前だけでなく、ディフェンスラインの後方の広い範囲にまで広がってきている。

このように、GKはチームの最後の砦としてゴールを守ると同時に攻撃の起点の役割を担う、多様なスキルが求められる重要なポジションへと変化している。

2. 日本サッカーの躍進とJリーグの誕生

近年、日本サッカーは目覚ましい発展を遂げており、初出場した1998年のフランスワールドカップから2018年のロシアワールドカップまで6大会連続出場を果たしている。また、1993年に誕生したJリーグは、日本におけるサッカーの「普及・育成・強化」の重要な役割を担っている。発足当初は10クラブで始まったが、2019シーズンでは、Division1からDivision3までの3カテゴリーに55クラブが所属しており、その範囲は39都道府県にまで広がっている。

3. 日本人選手の海外進出

日本サッカーのレベルが向上するに伴い、海外のリーグで活躍する選手が増加してきた。日本人サッカー選手の海外移籍について、高橋(2004)³⁾の報告によると、1975年から2003年8月時点で収集された107の事例には、25人の日本代表選手が含まれており、彼らの移籍回数は39事例となっている。日本代表選手の国際移籍は、28事例が欧州、10事例が南米、1事例がアジア(韓国)となっている。それに比べ、日本代表経験のない選手の移籍は、52.9%が南米、19.1%が欧州、16.2%がアジア、11.8%がその他の大陸連盟となっている。このことから日本代表に選出される多くの選手は欧州へ移籍し、そうでない選手は南米に移籍することが多く、欧州、アジアなど世界各地へ移籍する傾向がみられる。

日本代表に選出されるような選手の多くは欧州への移籍を目指し、中でも欧州5大リーグと言われる、イングランド、スペイン、イタリア、

表1 欧州5大リーグでプレーする日本代表選手（2018-2019シーズン）

国名	氏名	所属チーム	ポジション	先発出場	途中出場
イングランド	岡崎 慎司	レスター	FW	1 試合	20 試合
	武藤 嘉紀	ニューカッスル	FW	5 試合	12 試合
	吉田 麻也	サウサンプトン	DF	17 試合	0 試合
ドイツ	大迫 勇也	ブレーメン	FW	15 試合	6 試合
	長谷部 誠	フランクフルト	MF	28 試合	0 試合
	浅野 拓磨	ハノーバー	FW	9 試合	4 試合
	原口 元気	ハノーバー	FW	22 試合	6 試合
	宇佐美 貴史	デュッセルドルフ	FW	9 試合	10 試合
スペイン	久保 裕也	ニュルンベルク	FW	15 試合	7 試合
	乾 貴士	アラベス	MF	10 試合	2 試合
	柴崎 岳	ヘタフェ	MF	5 試合	2 試合
フランス	川島 永嗣	ストラスブール	GK	0 試合	1 試合
	酒井 宏樹	マルセイユ	DF	25 試合	1 試合
	昌子 源	トゥールーズ	DF	16 試合	0 試合

出所) 日刊スポーツホームページ(以下, HPと略記)より筆者作成

ドイツ, フランスのリーグを目指している。現在, 欧州5大リーグの最上位でビジョン(1部)に所属する日本人選手の一覧を表1⁴⁾に示した。2019年6月5日現在計14名となっており, ポジションの内訳はフォワード(以下, FWと略記)が7名, ミッドフィールダー(以下, MFと略記)が3名, ディフェンダー(以下, DFと略記)が3名, GKが1名である。出場状況については, 多くのフィールドプレーヤーが出場機会を得ているのに対し, GKの川島選手のみ, 試合出場が1試合に終わっている。このことから, フィールドプレーヤーには欧州5大リーグで活躍する選手がいるのに対し, GKで活躍している選手が少ないのが現状である。

II 研究の目的

ここまで述べたように, 現代サッカーにおいて, GKの担う役割の重要性は増加している。

また, 日本サッカーのレベルは, 欧州5大リーグで活躍する選手を多く輩出するまでに成長してきた。しかしながら, GKに関しては, 日本を代表する選手でさえも, 欧州5大リーグに

おいては, 出場機会を得られていない。

そこで本研究は, 強化・育成において重要な役割を担う自国リーグであるJリーグに着目し, GKの出場状況, 日本人GKの特徴を明らかにすることを目的とした。

III 方法

1. 分析対象

2007シーズンから2018シーズンにJ1およびJ2リーグに出場したGKを対象とした。

2. 調査方法

各々のシーズンにおいて, GKの個人データを収集した。収集した個人データは以下の4項目である。GKの個人データについては, JリーグHPの2007シーズンから2018シーズンの「出場記録」⁵⁾を参照した。

- 1) 国籍
- 2) 年齢
- 3) 身長
- 4) 出場率

3. 分析方法

年齢、出場試合数については、2007シーズンから2018シーズンの推移を分析した。国籍、身長については、シーズンごとに日本、韓国、それ以外の国について比較した。出場試合数については、シーズンごとに日本、韓国、それ以外の国の出場率で比較した。

4. 統計処理

国籍ごとの身長と比較については、t検定を用いた。統計処理にはSPSS25.0 for windowsを使用した。有意水準は5%未満とした。

IV 結果

1. 国籍

2007シーズンから2018シーズンに出場したGKの国籍について、表2に示した。2015シーズンまでは日本人GKの比率が90%を超えていたが、2016シーズン以降は韓国籍GKの台頭もあり、日本人GKの比率が90%を下回った。2018シーズンにおいては、日本人GKの比率が70%台となっており、外国籍GKの比率が非常に高くなってきている。

2. 年齢

2007シーズンから2018シーズンに出場した日本人GKの年齢について、図1に示した。シーズンごとに変動はあるものの、2007シーズンから2018シーズンにかけて平均年齢は上がってきている。特に、2017シーズン、2018シーズンにおいては、2年連続で平均年齢が30歳を超えており、日本人GKの高齢化を顕著に表している。

3. 身長

2007シーズンから2018シーズンに出場したGKの身長について、図2に示した。韓国籍GKがJ1リーグに初めて出場した2010シーズン以降、すべてのシーズンにおいて、日本人GKの平均身長は韓国籍GKの平均身長よりも低かった。また、2017シーズンと2018シーズンでは、5名の韓国籍GKがJ1リーグで活躍した。2017シーズンと2018シーズンにおいて、J1リーグに出場した日本人GKと韓国籍GKを比較したところ、有意な差は認められなかった。しかしながら、2017シーズンにおいては、有意確率が10%未満となっており有意な傾向が認められた(図3)。

表2 J1リーグに出場したGKの国籍 (2007シーズンから2018シーズン)

シーズン	GK国籍 (J1リーグ)				国籍比率	
	日本	韓国	その他	その他外国籍選手国籍	日本	日本以外
2007	35	0	0		100.0%	0.0%
2008	33	0	0		100.0%	0.0%
2009	32	0	0		100.0%	0.0%
2010	31	1	0		96.9%	3.1%
2011	29	1	0		96.7%	3.3%
2012	34	2	0		94.4%	5.6%
2013	36	1	1	ブラジル	94.7%	5.3%
2014	30	1	0		96.8%	3.2%
2015	32	1	1	セルビア	94.1%	5.9%
2016	29	3	2	ポーランド, オーストラリア	85.3%	14.7%
2017	30	5	1	ポーランド	83.3%	16.7%
2018	20	5	2	ポーランド, オーストラリア	74.1%	25.9%

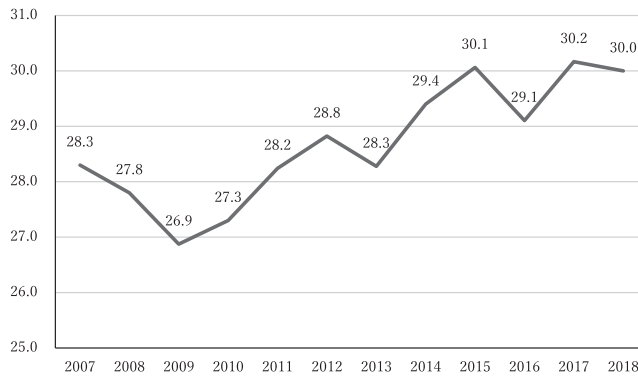


図1 J1リーグに出場した日本人 GK の平均年齢 (2007 シーズンから 2018 シーズン)

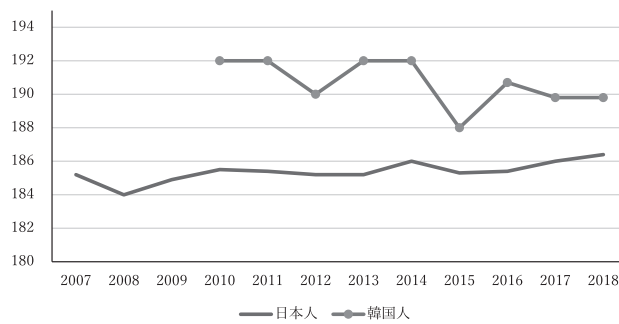


図2 J1リーグに出場した日本人 GK と韓国籍 GK の平均身長 (2007 シーズンから 2018 シーズン)

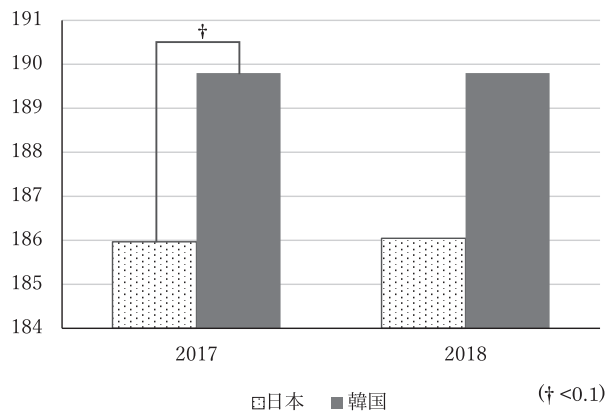


図3 J1リーグに出場した日本人 GK と韓国籍 GK の平均身長の比較 (2017 シーズン, 2018 シーズン)

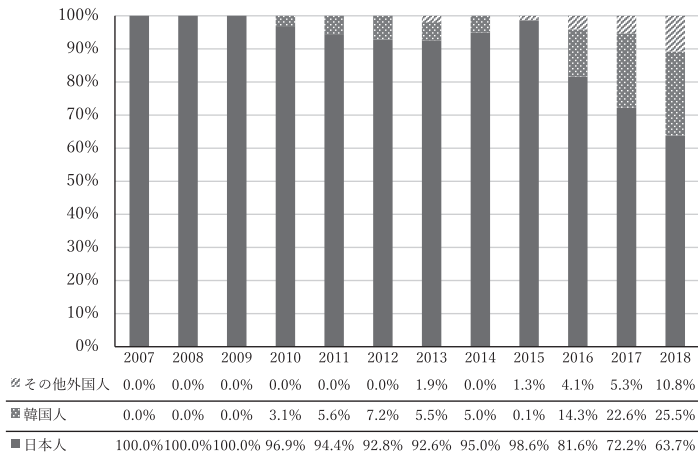


図4 J1リーグに出場したGKの国籍別出場率
(2007シーズンから2018シーズン)

4. 出場率

2007シーズンから2018シーズンに出場した日本人GK、韓国籍GK、韓国籍以外の外国籍GKの出場率を図4に示した。2015シーズンまでは日本人GKの出場率が90%を超えていたが、2016シーズン以降は韓国籍GKの出場率の割合が大きくなり、日本人GKの比率が90%を下回った。2018シーズンにおいては、日本人GKの出場率は60%台となっており、外国籍GKの比率が非常に高くなってきている。

V 考察

表2より、2010シーズン以降、外国籍GKが増加しているという結果が得られた。加えて、図4より2010シーズン以降、出場率においても同様の結果が得られた。2010シーズンに韓国籍GKのキムジンヒョン選手が出場して以降、全てのシーズンで外国籍GKが出場している。特に、2017シーズンは5名の韓国籍GKを含めた6名、2018シーズンも5名の韓国籍GKを含めた7名の外国籍GKが出場している。2010シーズン以降に外国籍GKが出場し始めた要因として、2009シーズンより採用されたアジア枠の影響が考えられる。表3⁶⁾より、2008シーズンま

では原則3名の外国籍選手のみが試合に登録および出場が可能であったが、2009シーズンからアジア枠の採用により、アジアサッカー連盟に所属する選手は外国籍枠3名とは別に1名出場が可能になった。加えて、2016シーズンからは提携国枠が採用され、Jリーグと提携している8カ国の選手を日本人同様に扱う規約が制定された。現在までに、提携国枠を使用して、J1リーグに出場した外国籍GKは存在しない。しかしながら、今後提携国に優秀な選手がいれば提携国枠を使用して、積極的に外国籍選手を獲得するようになるクラブも増えていくと考えられる。

図1より、2007シーズンから2018シーズンにかけて日本人GKの年齢が高くなってきていることが読み取れる。Drs Raffaele Poli, Loic Ravenel and Roger Besson (2017)⁷⁾は、「欧州サッカー連盟に所属する31のトップディビジョンの年齢をしらべた結果、GKは他のポジションと比べ、より長い寿命を確認している」と報告している。特に、イギリスとイタリアでは顕著で、いずれも平均年齢が29歳以上となっている。加えて、調査したすべての国においてGKの平均年齢は他のポジションより高かったと報告している。つまり、日本および欧州にお

表3 J1リーグの外国人枠の変遷（1993シーズンから2018シーズン）

年	項目	人数	内訳
1993	登録	3	外国籍選手3名
	出場	3	外国籍選手3名
2000	登録	5	外国籍選手3名とアマチュアまたはC契約の外国籍選手2名
	出場	3	外国籍選手3名とアマチュアまたはC契約の外国籍選手2名のうち3名
2009	登録	5	外国籍選手3名とアマチュアまたはC契約の外国籍選手またはアジア枠選手 ¹ のうち2名（アジア枠選手は最大1名）
	出場	3+1	外国籍選手3名とアマチュアまたはC契約の外国籍選手2名のうち3名＋アジア枠選手1名
2014	登録	3+2	外国籍選手3名+以下のいずれか2名 ・アマチュア選手 ・C契約の外国籍選手 ・アジア枠選手（最大1名） ・提携国枠選手 ²
	出場	3+1	外国籍選手3名+アジア枠選手1名
2017	登録	5	外国籍選手5名
	出場	3+1	外国籍選手3名, アジア枠選手1名
	備考		提携国枠選手 ³ の登録および出場に関しては, 外国人選手とみなさない
2018	登録	5	外国籍選手5名
	出場	3+1	外国籍選手3名, アジア枠選手1名
	備考		提携国枠選手 ³ の登録および出場に関しては, 外国人選手とみなさない

¹…アジアサッカー連盟（AFC）加盟国選手²…Jリーグが別途「Jリーグ提携国」として定める国の国籍を有する選手（タイ、ベトナム、ミャンマー、カンボジア、シンガポール、インドネシア、マレーシア、イラン、カタール）³…イランは2017シーズンをもってパートナーシップ協定期間が満了したため、2018シーズンより対象外

出所) Jリーグ規約・規程集1993から2018より筆者作成

いて、若い年代のGKが出場機会を得ることは困難であり、試合に出場しながら成長していくことが極めて難しい状況であることが考えられる。

表4は2004年のオリンピックアテネ大会から2016年オリンピックリオデジャネイロ大会までに出場したGKの所属クラブ、所属クラブディビジョン、出場記録を示している。サッカー競技におけるオリンピック代表は23歳以下の選手（本大会のみ24歳以上の選手を最大3名まで加えることが可能なオーバーエイジ枠を設定）で構成されるチームであり、若い年代の選手が国際大会を経験できる機会であると考えられる。大会ごとに2名のGKが登録されるが、J1に登録されていなかったのは、2016年オ

リンピックリオデジャネイロ大会に出場した中村選手の前年と2012年オリンピックロンドン大会に出場した権田選手の開催年の2事例のみで、オーバーエイジ枠で2004年オリンピックアテネ大会に出場した曾ヶ端選手を含め、全てのGKが開催年とその前年、前々年においてJ1リーグに所属しており、いずれもJ1リーグで出場を果たしていた。

一方、表5-1から表5-4⁸⁾は2020年東京オリンピックを目指す、U-22チームの各大会に登録されたGKである。2018年に行われた3大会、2019年に行われた1大会において、波多野選手がJ1リーグのFC東京、谷選手がJ1リーグのガンバ大阪に所属しているものの、実際にはJ3リーグに所属しているU-23のチームでの出場

表4 2004年から2016年までのオリンピック出場 GK の自クラブ出場実績

開催年	氏名	所属クラブ 開催年	所属クラブ 出場実績		所属クラブ 前年	所属クラブ 出場実績		所属クラブ 前々年	所属クラブ 出場実績	
			試合	試合 時間		試合	試合 時間		試合	試合 時間
2016 リオ	中村 航輔	J1	28	2,520	J2	20	1,800	J1	0	0
	櫛引 政敏	J1	0	0	J1	10	900	J1	29	2,610
2012 ロンドン	権田 修一	J2	31	2,729	J1	20	1,800	J1	30	2,700
	安藤 駿介	J1	1	90	J1	13	1,170	J1	0	0
2008 北京	西川 周作	J1	22	1,972	J1	1	90	J1	30	2,622
	山本 海人	J1	13	1,170	J1	13	1,170	J1	0	0
2004 アテネ	曾ヶ端 準 ¹⁾	J1	27	2,373	J1	30	2,700	J1	30	2,749
	黒川 貴矢	J1	4	356	J1	24	2,160	J1	11	1,087

¹⁾…曾ヶ端 準はオーバーエイジ枠による選出
出所) JリーグHP「出場記録」(2004シーズンから2016シーズン)より筆者作成

がほとんどであった。その他の選手は海外リーグでプレーしている選手もいたが、下部リーグでのプレーとなり、それ以外は大学リーグ所属チームでプレーしていた。

日本サッカー協会は2005年宣言⁹⁾として2015年までに世界ランキングトップ10入りを掲げており、日本代表チームが世界で結果を残すためには、オリンピック代表チームとなる23歳以下の日本代表チームを強化しなければ、継続的に日本代表チームを強化することは困難である¹⁰⁾と、23歳以下の選手強化の重要性を述べている。

図2より、2010シーズンから2018シーズンにかけて日本人GKは韓国籍GKよりも平均身長が低かった。特に、2017、2018シーズンにJ1リーグに出場した日本人GKと韓国籍GKの平均身長を比較した場合、2017シーズンにおいて有意差は認められなかったが有意な傾向($t=-1.951$, $df=33$, $p=0.06$)は認められ、日本人GKは韓国籍GKより身長が低かった(図3)。かつての日本代表を率いたヴァイッド・ハリルホジッチは、GKのみを招集したミニキャンプを

開催した際、「現代フットボールでは(身長が)190cmないと、良いGKとは言えない。」「180cm台のGKもハイレベルにいけるが、困難はある。育成でチョイスするとき、身長が大きくなりそうな選手を選ぶことが大事だ。小さいGKには大きいGKより反応が良い選手もいるが、身長が高くないとハイレベルで戦えないのは現実だ¹¹⁾と述べており、身長がGKにおいて、非常に重要な要素であると考えられる。つまり、韓国籍GKが増加した理由のひとつが身長であると考えられる。

国際移籍について、Drs Raffaele Poli, Loic Ravenel and Roger Besson (2017)⁷⁾は、「フォワードの移籍が51.1%に対して、ゴールキーパーは26%に過ぎない」と報告している。韓国代表選手の多くがJ1リーグでプレーしていること、GK国際移籍が難しいことを考えると、より多くの日本人GKの出場機会を日本国内(Jリーグ)において創出するため、強化策を講じることが必要である。

その貴重な一事例が韓国プロサッカーリーグの例である。韓国のプロサッカーリーグの規

表 5-1 AFC U-23 選手権タイ 2020 予選出場 GK の所属クラブ出場実績

2019/3/22 (金) ~ 2019/3/26 (火)		所属クラブ 開催年		所属クラブ 出場実績		所属クラブ 前年		所属クラブ 出場実績	
				試合	試合時間			試合	試合時間
2019	小島 亨介	関東 1部	早稲田大学 2018	21	1,845	関東 2部	早稲田大学 2017	7	900
	オビ パウエル オビenna	関東 1部	流通経済大 2018	13	1,170	関東 1部	流通経済大 2017	21	1,890
	波多野 豪	J3	F東京 2018	11	990	J3	F東京 2017	15	1,350

出所) JリーグHP「出場記録」および関東大学リーグHP「過去の試合結果」より筆者作成

表 5-2 ドバイカップ U-23 選手権出場 の所属クラブ出場実績

2018/11/12 (月) ~ 2018/11/20 (火)		所属クラブ 開催年		所属クラブ 出場実績		所属クラブ 前年		所属クラブ 出場実績	
				試合	試合時間			試合	試合時間
2018	小島 亨介	関東 1部	早稲田大学 2018	21	1,845	関東 2部	早稲田大学 2017	7	900
	山口 瑠伊	SPA 4部	エストレマドゥーラ 2017/スペイン	記録不明		FRA 2部	ロリアンB 2017/フランス	記録不明	
	谷 晃生	J3	G大阪 2018	17	1,530	J3	G大阪 2017	4	360

出所) JリーグHP「出場記録」および関東大学リーグHP「過去の試合結果」より筆者作成

表 5-3 第 18 回 アジア大会出場 GK の所属クラブ出場実績

2018/8/18 (土) ~ 2018/9/2 (日)		所属クラブ 開催年		所属クラブ 出場実績		所属クラブ 前年		所属クラブ 出場実績	
				試合	試合時間			試合	試合時間
2018	小島 亨介	関東 1部	早稲田大学 2018	21	1,845	関東 2部	早稲田大学 2017	7	900
	オビ パウエル オビenna	関東 1部	流通経済大 2018	13	1,170	関東 1部	流通経済大 2017	21	1,890

出所) JリーグHP「出場記録」および関東大学リーグHP「過去の試合結果」より筆者作成

表 5-4 トゥーロン国際大会出場 GK の所属クラブ出場実績

2018/5/26 (土) ~ 2018/6/9 (土)		所属クラブ 開催年		所属クラブ 出場実績		所属クラブ 前年		所属クラブ 出場実績	
				試合	試合時間			試合	試合時間
2018	小島 亨介	関東 1部	早稲田大学 2018	21	1,845	関東 2部	早稲田大学 2017	7	900
	山口 瑠伊	SPA 4部	エストレマドゥーラ 2017/スペイン	記録不明		FRA 2部	ロリアンB 2017/フランス	記録不明	
	オビ パウエル オビenna	関東 1部	流通経済大 2018	13	1,170	関東 1部	流通経済大 2017	21	1,890

出所) JリーグHP「出場記録」および関東大学リーグHP「過去の試合結果」より筆者作成

Mar. 2020

Jリーグにおけるゴールキーパーの特徴と課題

約¹²⁾によると、「大会要項は、全42条からなる。その中の第31条(出場選手名簿提出義務)の4.1に、GKは必ず国内選手でなければならず、控え(GK)は必ず1名がはいらなければならない」とある。金ダニエル(2018)¹³⁾は、「1990年半ばまでは自由に外国籍GKが活動できた。しかし、1992年に城南一和(現城南FC)に入団したロシア出身のGKサリチェフ選手が圧倒的な技量でチームを連続優勝に導くと、各球団は先を競って外国籍GKと契約した。自国GKが瀕死の危機に接しているという批判に、韓国プロサッカー連盟は、1996年から外国籍GKの出場時間を制限した。続く1999年からは、外国籍GKの出場禁止条項ができた。」と述べている。このように、韓国プロサッカーリーグでは外国籍選手が活躍したことで、自国GKの育成が妨げになる恐れがあるため、GKに関して規制をかけている。

以上より、J1リーグだけでなく、オリンピック日本代表、U-22日本代表のGK出場実績を鑑みても、現状の日本人GKの強化育成について何らかの施策を施さなければいけないことは明白であり、今後の日本サッカー発展のためにも早急な対策が必要である。

VI 結論

本研究では、強化・育成において重要な役割を担う自国リーグであるJリーグに着目し、2007年から2018年シーズンにJ1リーグに出場したGKを対象に、GKの出場状況、日本人GKの特徴の分析を行った結果、以下の内容が明らかになった。

- ・日本人GKの出場時間が減少し、外国籍GKの出場時間が増加している。さらに、その外国籍GKは韓国籍選手である。
- ・韓国籍GKに比べ、日本人選手の平均身長は低い。
- ・日本人GKの高齢化が進んでいる。

注

- 1) Dooley, T. and Titz, C. (2011) "Soccer Goalkeeper Training." Meyer & Meyer Sport: Maidenhead, p.8
- 2) 財団法人日本サッカー協会(2012)『サッカー指導教本2012』17ページ。
- 3) 高橋義雄(2004)「日本人Jリーグ選手の国際移籍に関する研究」『スポーツ産業学会研究』Vol.14, No.1, 17ページ。
- 4) 日刊スポーツHP(2019)「サッカー/海外サッカー/日本人選手」<https://www.nikkansports.com/soccer/world/japanese/>(2019年6月1日閲覧)
- 5) JリーグHP(2019)「成績・データ/出場記録」<https://data.j-league.or.jp/SFPR01/>(2019年5月30日閲覧)
- 6) 財団法人日本プロサッカーリーグ『J.LEAGUE HANDBOOK Jリーグ規約・規程集』(1993～2018)
- 7) Drs Raffaele Poli, Loic Ravenel and Roger Besson. (2017) "CIES Football Observatory Monthly Report" No.22, February, 2017. <http://www.football-observatory.com/IMG/sites/mr/mr22/en/>(2019年6月3日閲覧)
- 8) JリーグHP(2019)「成績・データ/出場記録」<https://data.j-league.or.jp/SFPR01/>(2019年5月30日閲覧)および一般社団法人関東大学サッカー連盟HP(2019)「過去の試合結果/公式記録」<https://www.jufa-kanto.jp/history/>(2019年6月10日閲覧)
- 9) 財団法人日本サッカー協会(2005)『Technical news Vol.6』16ページ。
- 10) 財団法人日本サッカー協会(2004)『JFAテクニカルレポート第28回オリンピック競技大会(2004/アテネ)』30-35ページ。
- 11) 講談社(2017)ゲキサカ「190cmないと良いGKとは言えない」<https://web.gekisaka.jp/news/detail/?201159-201159-fl/>(2019年6月20日閲覧)
- 12) K.League HP(2019) "Rule and Regulations" <http://www.kleague.com/about/Competition>(2019年6月10日閲覧)
- 13) 金ダニエル(2018)「Kリーグに望む-②」<https://brunch.co.kr/@camirero82/17>(2019年6月18日閲覧)

参考文献

- 財団法人日本サッカー協会(2012)『サッカー指導教本2012』
高橋義雄(2004)「日本人Jリーグ選手の国際移籍に関

する研究』『スポーツ産業学会研究』Vol.14, No1
財団法人日本プロサッカーリーグ (1993～2018)
『J.LEAGUE HANDBOOK Jリーグ規約・規程集』
財団法人日本サッカー協会 (2005) 『Technical news
Vol.6』

財団法人日本サッカー協会 (2004) 『JFA テクニカルレ
ポート第28回オリンピック競技大会 (2004/アテ
ネ)』

(2019年11月22日掲載決定)